

今度は大企業、富裕層、政府が負担をする番だ！

京都社保協学習会で岡崎祐司氏（仏教大学教授）が講演

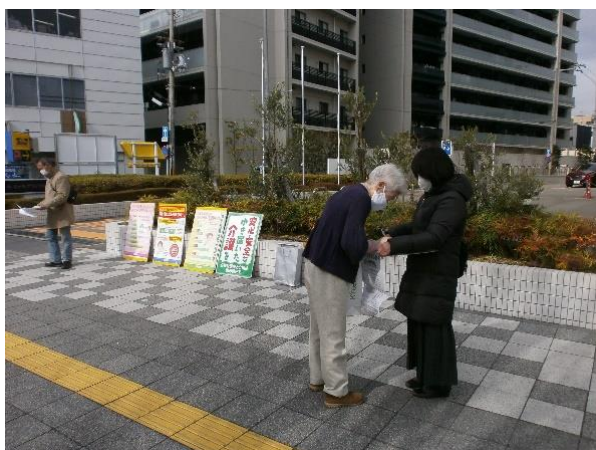
1月28日、京都社保協主催のWEB学習会が開催され、仏教大学の岡崎祐司教授が講演されました。「全世代型社会保障」をかかげて世帯間対立をあおる政府・財界のねらいは、高齢者も若者も全世代わたって負担を増やし、大企業や富裕層、政府の負担を減らしていくことに他なりません。財界は低賃金・不安定雇用を拡大して利益をあげてきました。企業に雇用責任のない「働き方」を全世代にわたって広げたい考えです。社会保障にかかる企業責任もなくしたい考えです。そのため、社会保険から「社会原理」（企業、国の関与、負担）をはずし、もっぱら「保険原理」だけを強調して、“給付と負担のバランス”の土俵に国民、労働者をひきずりこんでいます。

年末の電話生活相談活動、学生への食糧支援活動を通じて、政治とくらしの関係がわかりやすくなっています。本当の対立軸は「世代間」ではありません。国民は十分に負担を担ってきた、今度は大企業、富裕層、政府が負担をする番だというメッセージを発信していきましょう。

75歳以上の医療費窓口負担の2割引き上げ反対を求める署名活動

高齢者のいのちを切り捨てる政策は、断じて許さない

1月28日、和歌山県社保協はJR和歌山駅前にて、75歳以上の医療費窓口負担の2割引き上げに反対し、署名とチラシ配布に取り組み、各団体から10名が参加しました。現在の1割負担であっても、高齢者の中には窓口負担を理由に受診を控える方も多く、こうした受診控えが進むと、高齢者



の健康の悪化・重症化が進み、医療費の増大だけでなく、死亡例を増やす事にもなりかねません。

署名に協力された方からは、「緑内障で目薬を打ち続けるといけないが、窓口負担が2割になると生活にも影響が出る。年金は減らされ、介護保険や医療費が高くなると、本当に生活が厳しくなる。」といった、切実な声が寄せられました。

私達は、「高齢者のいのちを切り捨てる政策は、断じて許さない」と、道行く皆さんに訴え、署名18筆が集まりました。

◎全国保険医団体連合会（保団連）が署名17万筆を提出

75歳以上の医療費窓口負担2割化に反対する署名提出集会が28日、衆議院第2議員会館内で行われました。集まった17万筆の署名が提出されました。住江会長は「国民生活が困難に直面している今、国民にさらに困難を強いる高齢者医療窓口負担の2割化は、断じて許せません。」と訴えました。（赤旗しんぶん1月29日付け報道より）